

し。

樓蘭、且
末は地底
に眠れり

唯、東部の瑪海才壁は、暴風の障得比較的に少なき故に、往時より支那及び蒙古地方の各種族は容易に移住し、又支那軍隊は幾回の遠征を果し得たりき。然れども風害の絶無と云ふには非らず、現に沙土を席卷して耕地を埋没し去るもの敢て珍らしからず。古昔は往々大颶風の襲來を受けしもの、如く、一たび繁榮鬧熱の市街も、遂に地底に没却せられたるもの少からずして、其の遺址より今尙ほ金銀の裝飾品、或は磚茶等の片塊を發掘すること有り。就中市街遺址の最大なるものは、羅布淖爾地方に多し、是れ古昔天山南路に雄飛して、唐宋の軍を惱ましたる樓蘭國、且末國等の都址なりと云ふ。慄悍なる當時の猛將勇卒も、風伯の猛烈なる征服に敵し難く、其の壯大なる都市と共に、永く地底の眠に就けり。

要するに暴風の時期は各所稍々異同あり、風位及び大小の差亦異なりと雖も、強風は概して三、四月と九、十月の二期に多く而して、其の風位は西北よりするものをしとす。又暴風襲來の前兆としては、必ず遠雷の如き響を聞くと。沙漠旅行中最も警戒を要するは實に此の暴風の襲來にありとす。